



染め物のまち・川内村

～川内村がDyeスキになるツアー～



國學院大學 観光まちづくり学部

はるのこひつじ

小村恋晴 辻響輝

01

はじめに

- ・ 自己紹介
- ・ このコンテストで期待すること

02

対象地域

- ・ 対象地域選定
- ・ 選定の理由
- ・ フィールドワークの内容/感想
- ・ 対象地域の概要
- ・ 対象地域の現状・課題分析

03

プランの提案

- ・ 課題解決案
- ・ プランのねらい
- ・ ターゲット設定
- ・ プロジェクト概要

04

ユニオンプランの効果と 実現計画

- ・ 経済効果
- ・ 人口/観光客誘致
- ・ 生産人口の増加
- ・ 文化的景観の形成
- ・ 観光まちづくり
- ・ 実現計画（情報発信/PR方法）

05

おわりに

- ・ プランの魅力
- ・ 今後の展望
- ・ ご協力いただいたみなさま



01

はじめに

- ・自己紹介
- ・このコンテストで期待すること

自己紹介

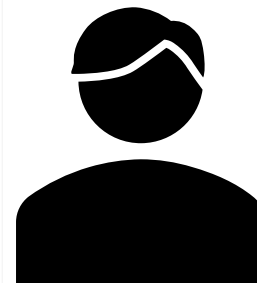
大学：國學院大學 観光まちづくり学部

専攻：観光まちづくり

観光学、地域資源論、観光政策論など

興味：民俗学、地域デザインなど

応募動機：コンテストを通じて、被災地域の現状や未来をより深く考えたいと思った。



このコンテストで期待すること

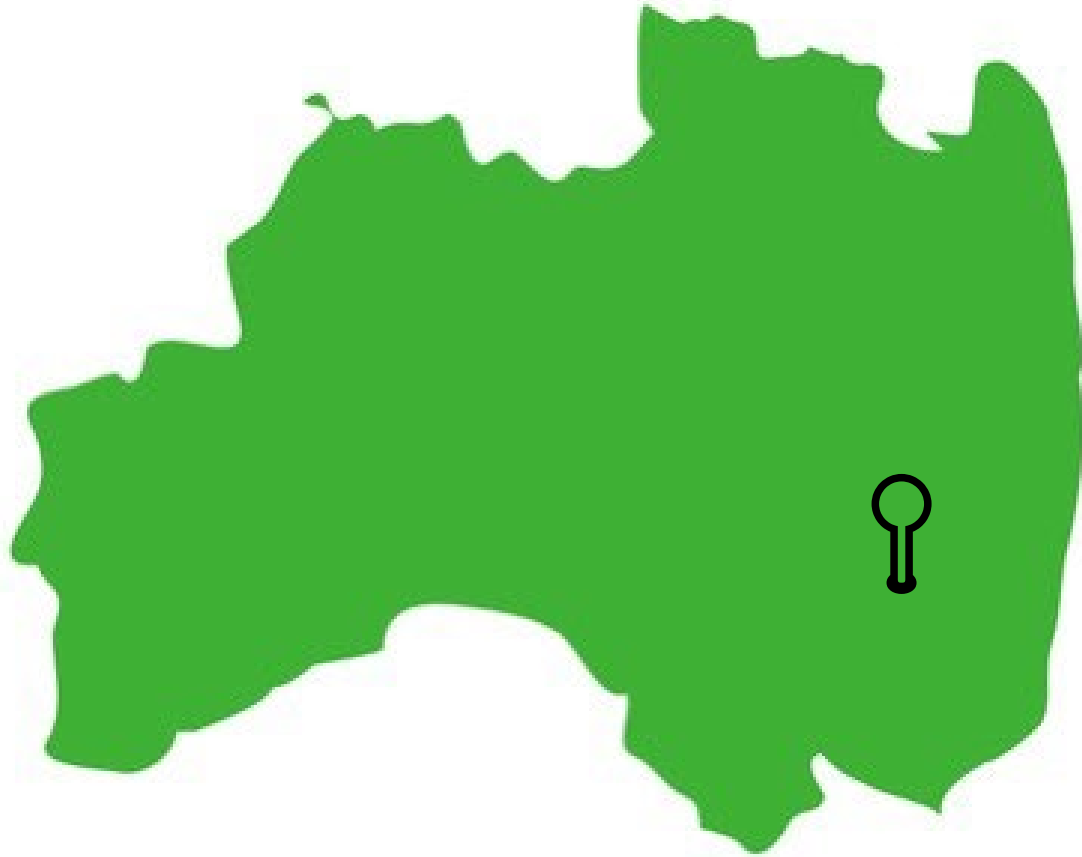
- 私たちが企画したプロジェクトで、選定した地域のみだけでなく、**ほかの地域を巻き込んで被災地域全体で成長していくこと**を期待する。
- 各プランが対象地域の方々の目に留まり、**地域の方々が自身が住んでいる土地の魅力**を再認識していただき、地域の住民であるということに誇りを持っていただけることを期待する。

02

対象地域

- ・ 対象地域選定
- ・ 選定の理由
- ・ フィールドワークの内容/感想
- ・ 対象地域の概要
- ・ 対象地域の現状・課題分析

私たちが選定した地域は



福島県双葉郡
川内村

なぜ川内村を対象地に選択したのか

- ①前回の観光まちづくりコンテストで川内村はあまりピックアップされていない地域である。
- ②福島県の観光スポットランキング※に入っていないことが多い。

ねらい

地域資源の利活用がうまくいっていない点を改善して、**観光客誘致**と**地域活性化**につなげたい。

フィールドワークの内容

1回目 7/25(火)～7/28(木)

訪問先：とみおかアーカイブ・ミュージアム
 東京電力廃炉資料館
 ふたばいんふお
 ビジネスホテルかわうち
 天山文庫
 コミュニティセンター
 川内村観光協会
 川内村役場
 あれ・これ市場
 Café Amazon
 遠藤きのご園
 かわうちワイナリー
 蕎麦酒房 天山
 いわなの郷
 かわうちラボ

2回目 8/6(日)～8/8(火)

訪問先：cafe&gallery 秋風舎
 fuku farming flowers



2023.7.28撮影



2023.7.28撮影

アポイントメントを取ってから訪問。各訪問先では川内村について伺ったり、仕事の見学をさせていただいた。この経験によって川内村の現状把握やまちの魅力に気づくことができた。

フィールドワークの感想

- 二次交通の不足（バス、電車、タクシー）
- 人が歩くことを想定としていないため、歩道がない
- 大きなお店がない
- 村のよさが外に伝わっていない

けれども

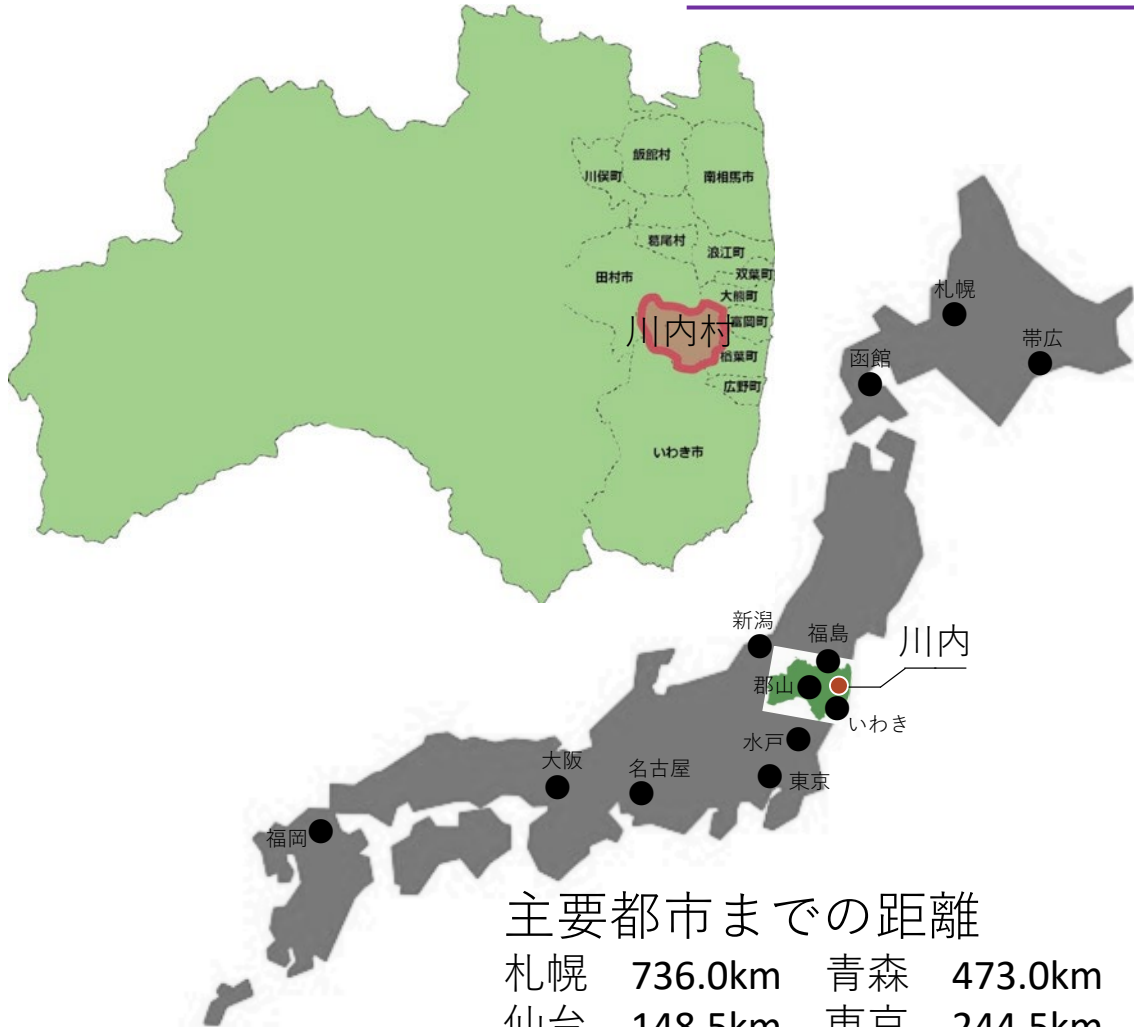
- **地域資源が豊富**
- **自然豊か**
- **人が優しい魅力的なまち**だと気づくことができた



川内村ってどんなところ？



川内村の地理的特徴



主要都市までの距離

札幌	736.0km	青森	473.0km
仙台	148.5km	東京	244.5km
大阪	796.5km	北九州	1,326.5km

地理的位置

- ・福島県双葉郡の中西部にある。
- ・いわき市をはじめとした2市5町と接する。
- ・北から南に阿武隈高地が走る。
- ・村の平均標高は約456mと比較的高い。

気候

- ・霜などの影響を受けやすいが、年間を通じて比較的温暖な太平洋側型である。
- ・標高が高く、夏は特に昼夜の温暖差が大きい。

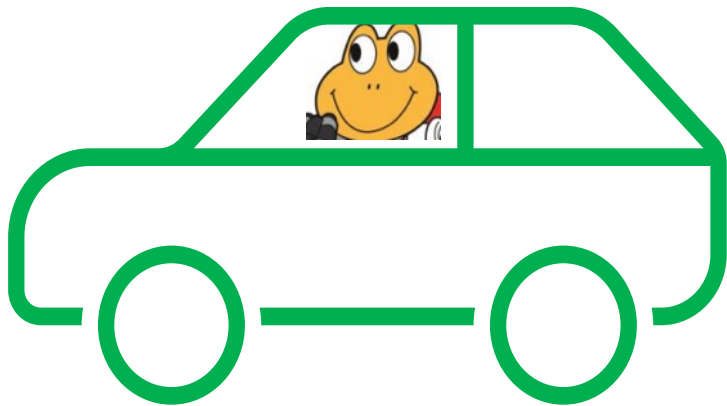
産業と土地利用

- ・耕地はわずか5%と少ないが、葉タバコ・畜産・高原野菜などの複合経営型農業が盛ん。
- ・村の大部分を占める山林は、かつて生活を支える重要な資源であった。

川内村へのアクセス

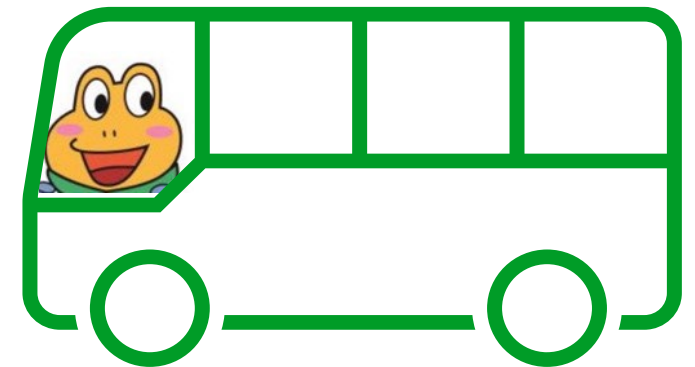
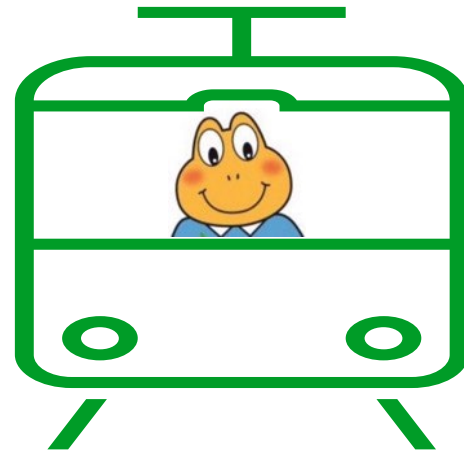
車の場合

小野ICから県道36号小野
富岡線で約40分
常磐富岡ICから県道36号
小野富岡線で約20分

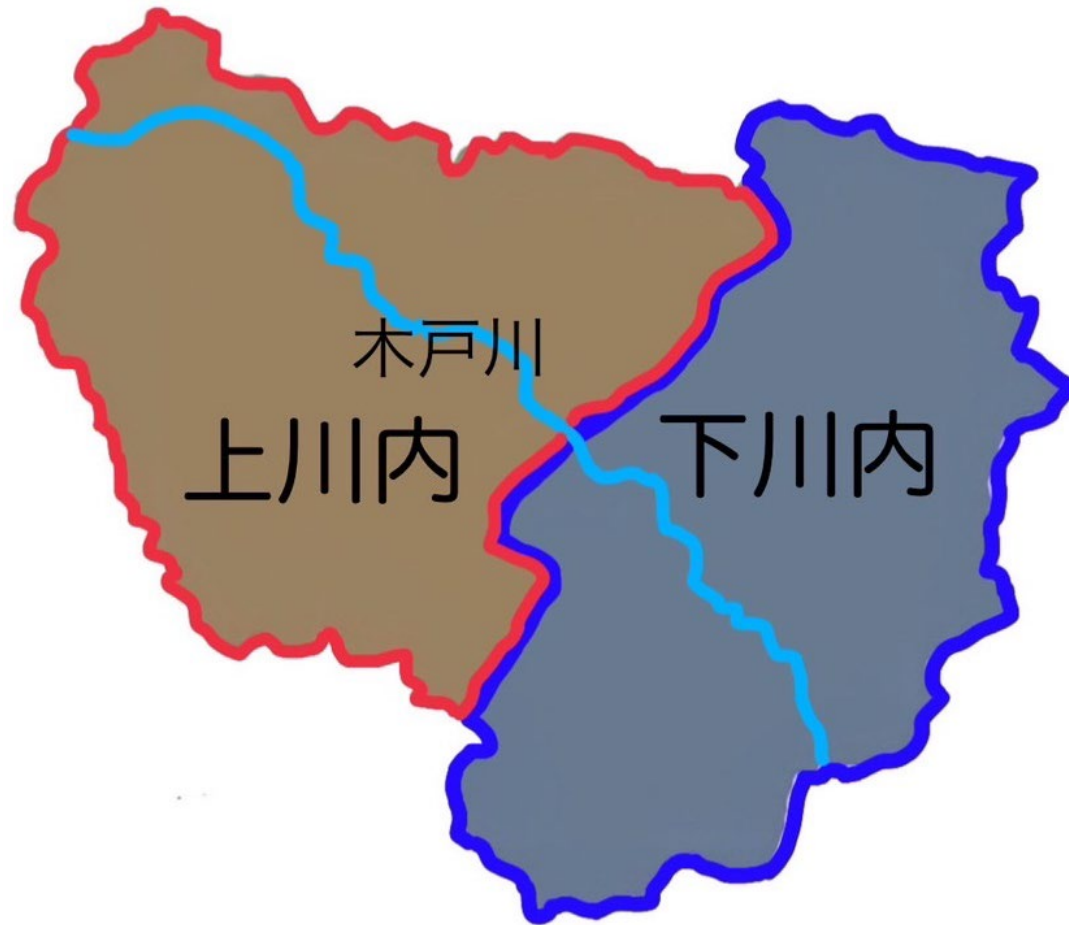


電車とバスの場合

JR常磐線富岡駅または
JR磐越東線
神俣・夏井・小野新町駅
各駅から路線バスで
約1時間



川内村の歴史



もともとは「上川内村」と
「下川内村」が存在



1889年の町村制により合併し、
現在の川内村になる

「川内村史」を参考に作成

川内村の産業 林業の変遷

1878年

山野改正の際、村民の生活を支えていた林業の元となる共有林が国有林に編入され林業がやりづらなった。

1904年

行政訴訟を起こし、これに勝訴。
共有林を取り戻した川内村は共有林からの収益によって村税廃止、全国でも希な**無税村**となった。

1940年代

豊かな森林資源をもとに**日本一の木炭生産地**に。
石油や電力へのエネルギー転換を経て衰退した。

川内村の産業 養蚕の変遷

江戸～明治

当時の基幹産業である稲作の閑散期に行われる産業として確立された。

大正

第一次世界大戦や関東大震災などの社会変動の中、暴落と高値を繰り返す波乱の多い時代だが**米国の好景気**にささえられ、生糸の需要は多く、川内村をはじめとした糸業界は発展の道をたどった。

昭和

米国の世界恐慌・絹の自由化とレーヨンの進出による生糸需要の減少と村内の葉タバコ産業との競合の末、衰退。

川内村の地域資源

豊富



かわうちワイン



ひたむき椎茸



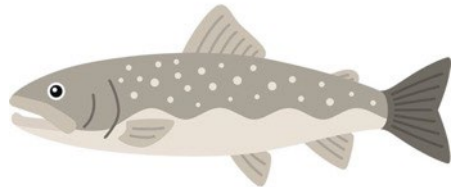
サラサドウダン



モリアオガエル



川内高原そば



イワナ



木炭



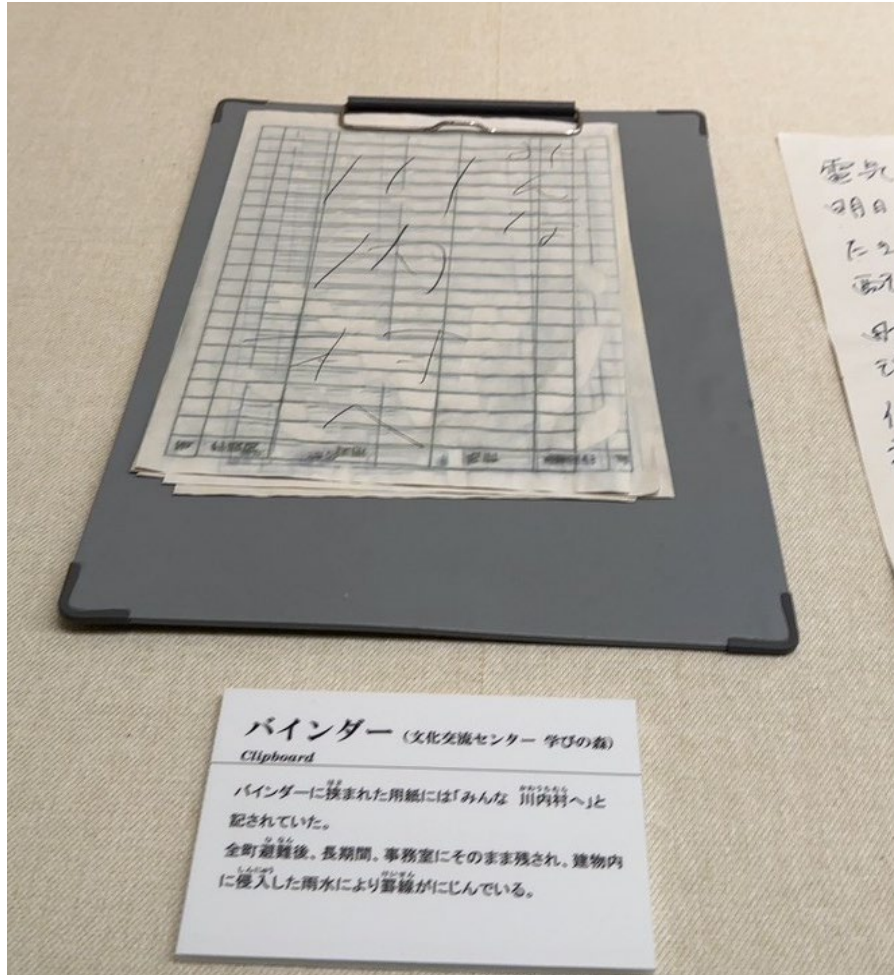
水



獅子舞

荳胡麻
凍み餅
かわうち三大祭り
平伏沼
木戸川
千扇川
じゅうねん など

東日本大震災と川内村のその後



「川内村への避難を誘導するバインダー」
とみおかアーカイブミュージアムにて撮影 (2023.8.25)

川内村は、浜通りの市町村では内陸に位置していたため、震災直後富岡町などからの避難者が多かった。しかし、福島第一原子力発電所から20~30km圏内にあり、2011年3月16日に全村避難となる。その後、放射線量が比較的低かったことから2012年1月には他の自治体に先駆け、帰村宣言が出された。しかし、全村避難の影響で、避難先で再就職した村民も多く、その結果、震災前より村の生産人口が減少した。



現在残る課題

- ・ 川内村から避難 → 避難先で仕事に就く → 定住
→ 村内の**生産人口（親世代）が減少** → **子供がいない**
- ・ 放射能物質による農業、林業の制限

川内村が抱える現在の課題

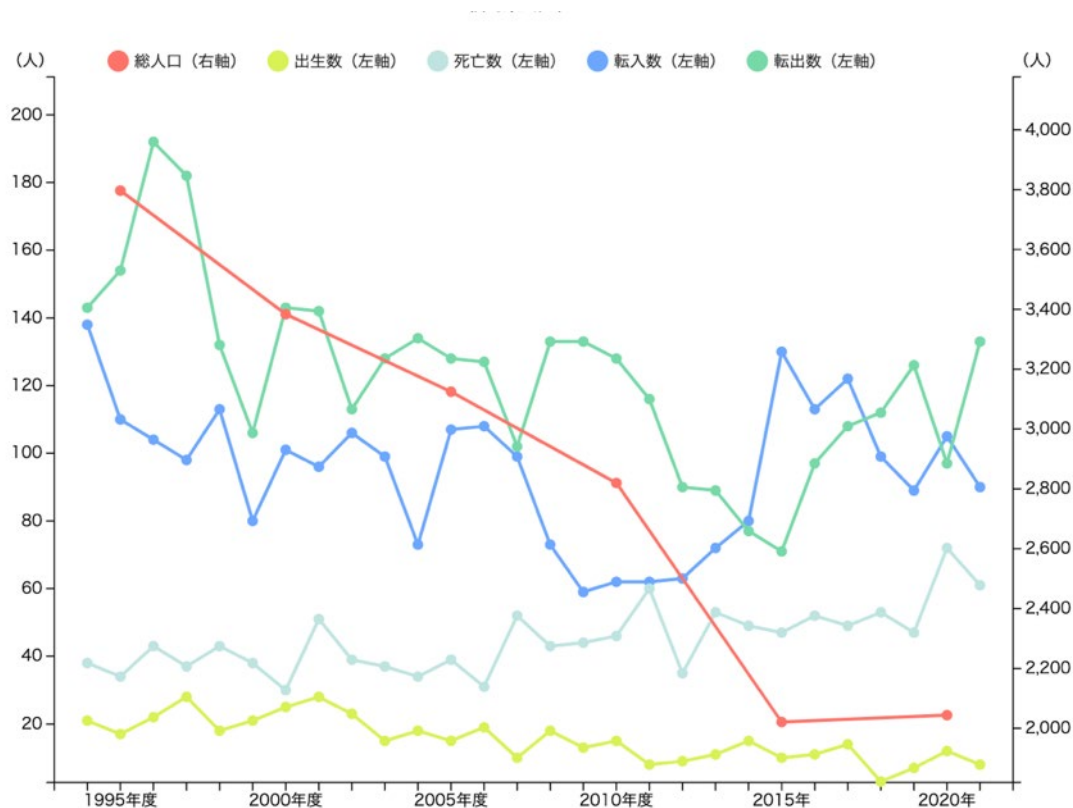
- ① 生産人口の不足・超高齢化
- ② 空き家・耕作放棄地の増加
- ③ 継続する企画の少なさ
地域先導するリーダーを探す
- ④ 二次交通の不足



川内村が抱える現在の課題

① 生産人口の不足・超高齢化

川内村の出生数・死亡数/転出入・転出数



RESAS参照

- 川内村が**2011年3月16日**に全村避難となった影響で住民が村を出て避難先で再就職し川内村内の生産人口が震災前よりも少なくなっている。

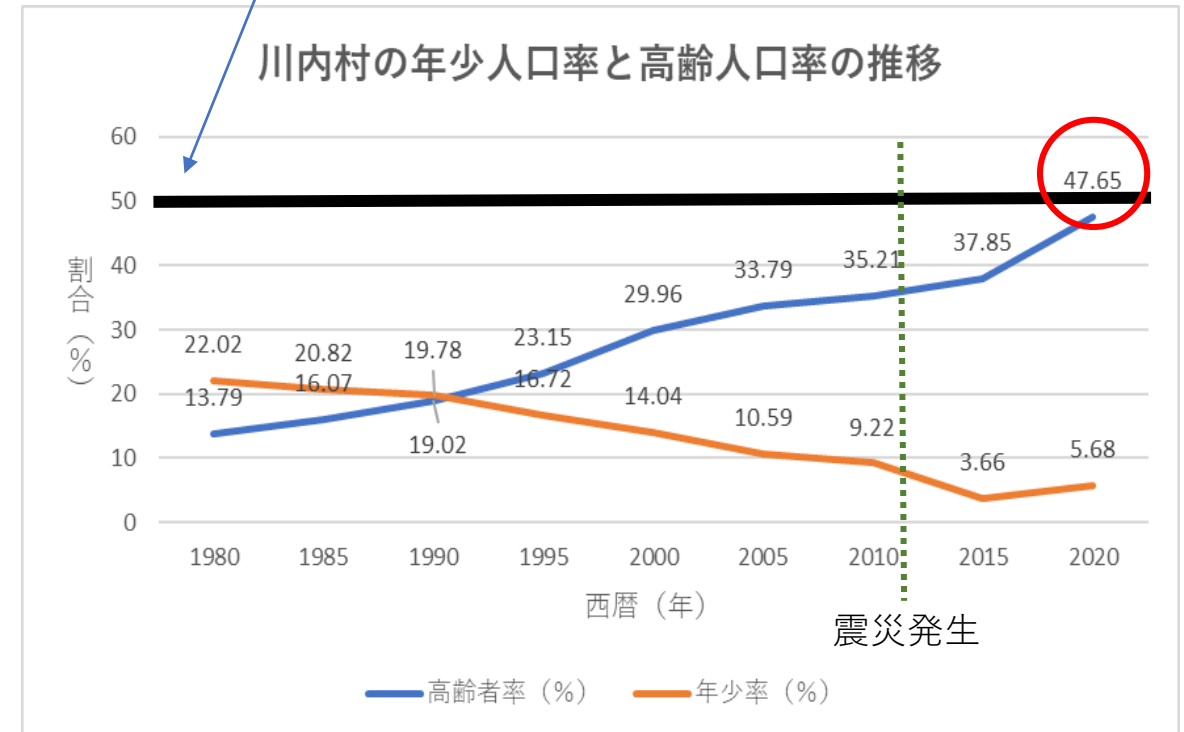
- 震災復興後は転入数はずかには上昇したが川内村以外のまちが復興してきたタイミングで転入数は減少し、転出数が増加している。

川内村が抱える現在の課題

① 生産人口の不足・超高齢化

- ・ 2020年時点で高齢者率が47.65%と、限界集落の一つの指標となる高齢者率50%が目前となっている。

限界集落の定義となるライン（高齢者率）



RESASをもとに作成

川内村が抱える現在の課題

② 空き家・耕作放棄地の増加

- ・ 震災で村を離れた住民の住宅が空き家として残存。

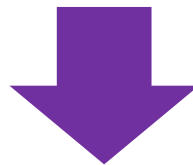


川内村の空き家の数は100件を超えているんだよ

一般社団法人 かわうちラボ
事務局長 三瓶義浩さま

かわうちラボでは
空き家の管理を行う「空
き家バンク」を始めとし
て、移住支援を中心とし
た活動を行っている。

- ・ 放射能などの影響で作物の栽培をやめた畑が耕作放棄地に。



村内の景観の損失につながってしまう

川内村が抱える現在の課題

③ 継続する企画の少なさ・地域を引っ張るリーダーを探す

- ・今までの川内村での企画（単発ツアーや観光まちづくりコンテストなど）は来村する人は増えるが、その企画が終わると元の状態に戻ってしまう
- ・企画の担い手不足



cafe&gallery 秋風舎
志賀風夏さま

今まで考えていただいたプロジェクトの多くが短期で行われていて定着しにくい。また、企画に携わる人が少なく一人ひとりの負担が大きい。

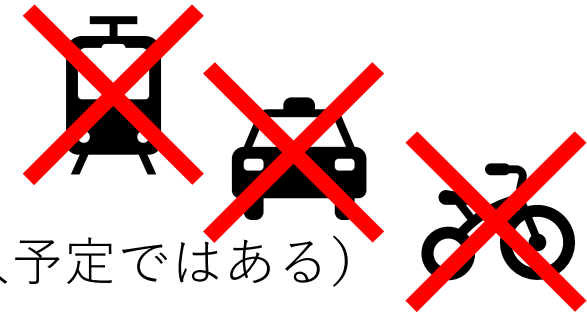
古民家をベースとしたカフェである秋風舎。村外からの訪問客と地元住民を結ぶこの拠点で食を通して川内村・そして福島魅力を伝えている。

川内村が抱える現在の課題

④ 二次交通の不足

5500-01[1] (1)1 川内農協 平日用時刻表 (月曜～金曜) 2022年10月1日改正			5500-01[1] (1)1 川内農協 土日祝用時刻表 (土曜、日曜、祝日、正月[12/31～1/3]) 2022年10月1日改正		
行先番号	[80-1]	[21-2]	行先番号	[80-1]	[21-2]
経由			経由		
行先	船引駅前	川内	行先	船引駅前	川内
5時			5時		
6時	33		6時	正33	
7時			7時		
8時	23	00	8時		
9時			9時		50
10時			10時	23	
11時			11時		
12時			12時		
13時		10	13時		
14時	03		14時		
15時			15時	43	15
16時			16時		
17時	43	15	17時		
18時			18時		
19時		35	19時		正35
20時			20時		
21時			21時		
22時			22時		
23時			23時		

- ・ 鉄道路線が通っていない
- ・ タクシーなし
- ・ 貸し出し自転車なし（導入予定ではある）



- ・ バスは新常磐交通、福島交通の2種類のみ
平日は1日に4本運行、土日祝日は3本運行

〈理由〉

- ①村外の学校へ通う学生のためにバスを運行している。そのため通学時間と帰宅時間に運行をしている。
- ②そもそもバスに乗る人が少ない。人が乗ることの方が珍しい。ガソリン代や人件費がかかるため運行数が少ない。



川内村が抱える現在の課題

① 生産人口の不足・超高齢化

② このような課題を解決するためには
何をすべきなのかなあ

③ 継続する企画の少なさ
地域先導するリーダーを探す

④ 二次交通の不足




03

プランの提案

- 課題解決案
- プランのねらい
- ターゲット設定
- プロジェクト概要

課題を解決に向けて：ユニオンプラン

コンテンツ 1

ワイン 

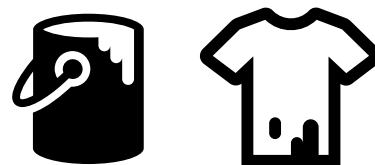
自由コンテンツ

村の特産品

(きのこ、サラサドウダン、そば、炭)

自由コンテンツ

染め物

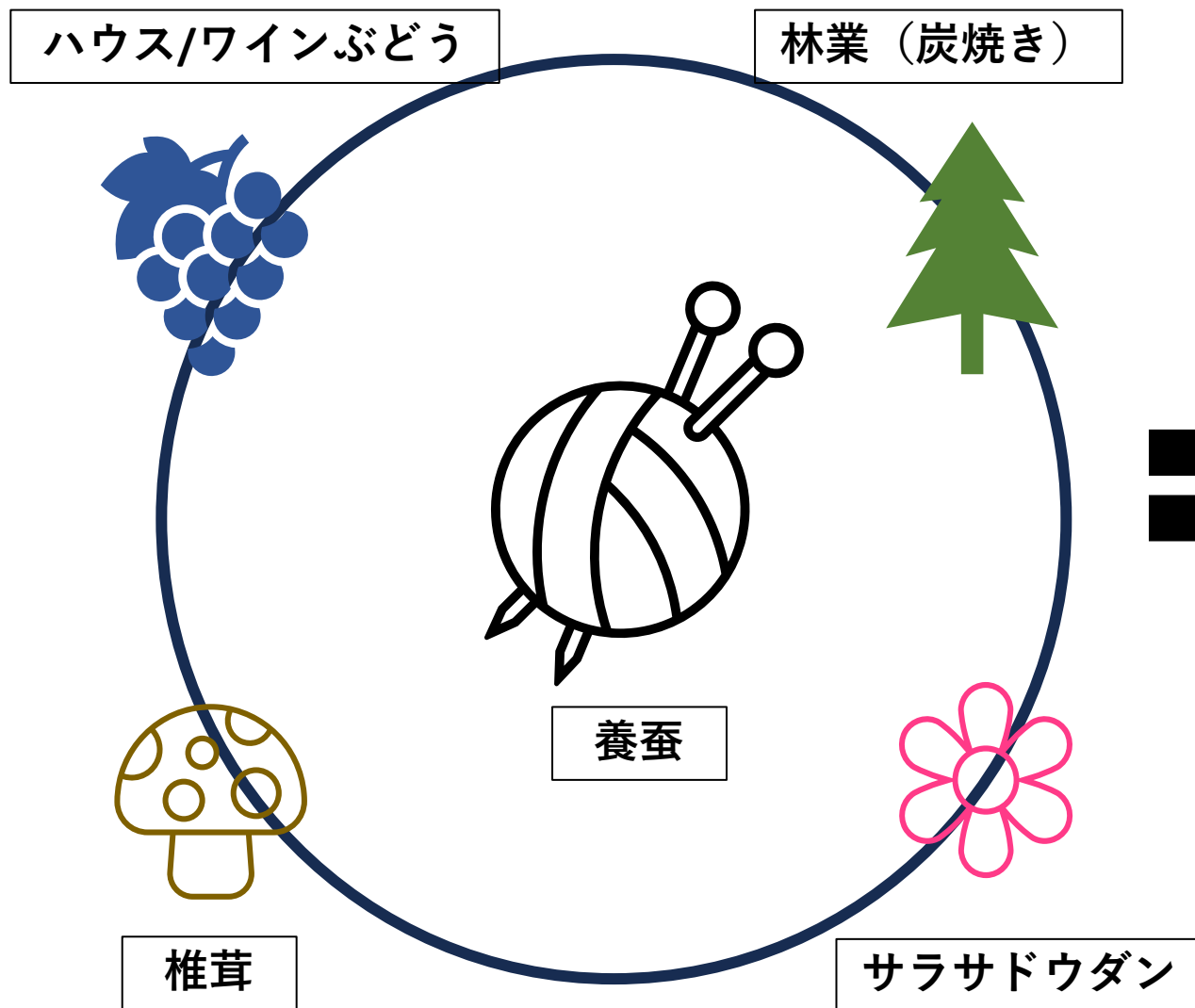


ツアー



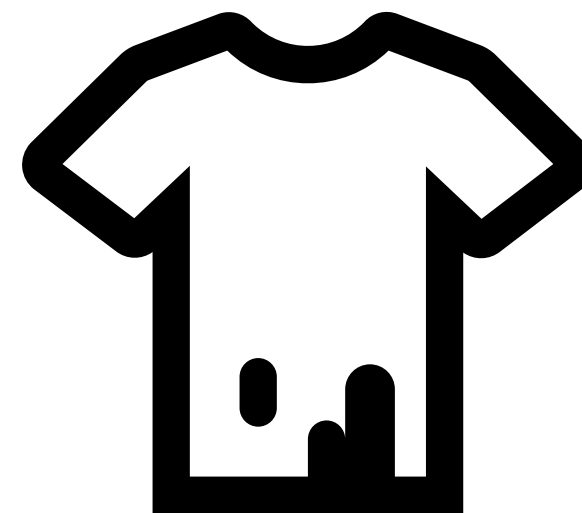
村の様々なコンテンツを**結合 (Union)** させる！

なぜ染め物なのか



かつて村の産業の一角を担った養蚕業と、現存する村の特産品を結び付けたなにかをしたい

=

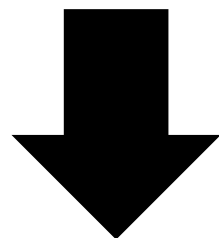


染め物（新しい産業）

関連の薄かった産業同士を組み合わせ、産業間のつながりを深めることに結びつく

プランのねらい

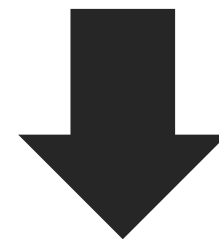
①川内村の新しい姿
を発信する



観光客誘致

村外の人々がこれまで縁の薄かった村に来て、染め物体験を通して村の魅力を知ることができる

②バラバラだった村の産業に
一体感を持たせる



地域活性化

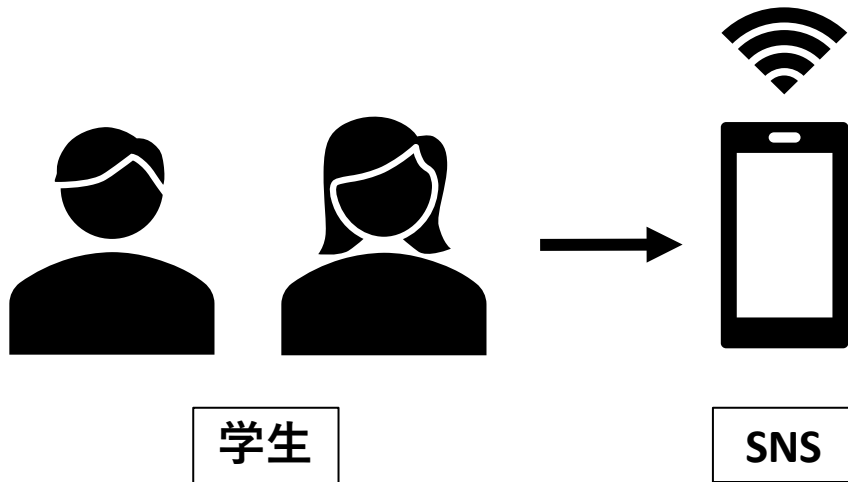
村民が生産したものを活用することによって、自分もプランに携わっているという**アイデンティティ**を確立することができる

プランのターゲット

プランの提案：
ユニオンプラン

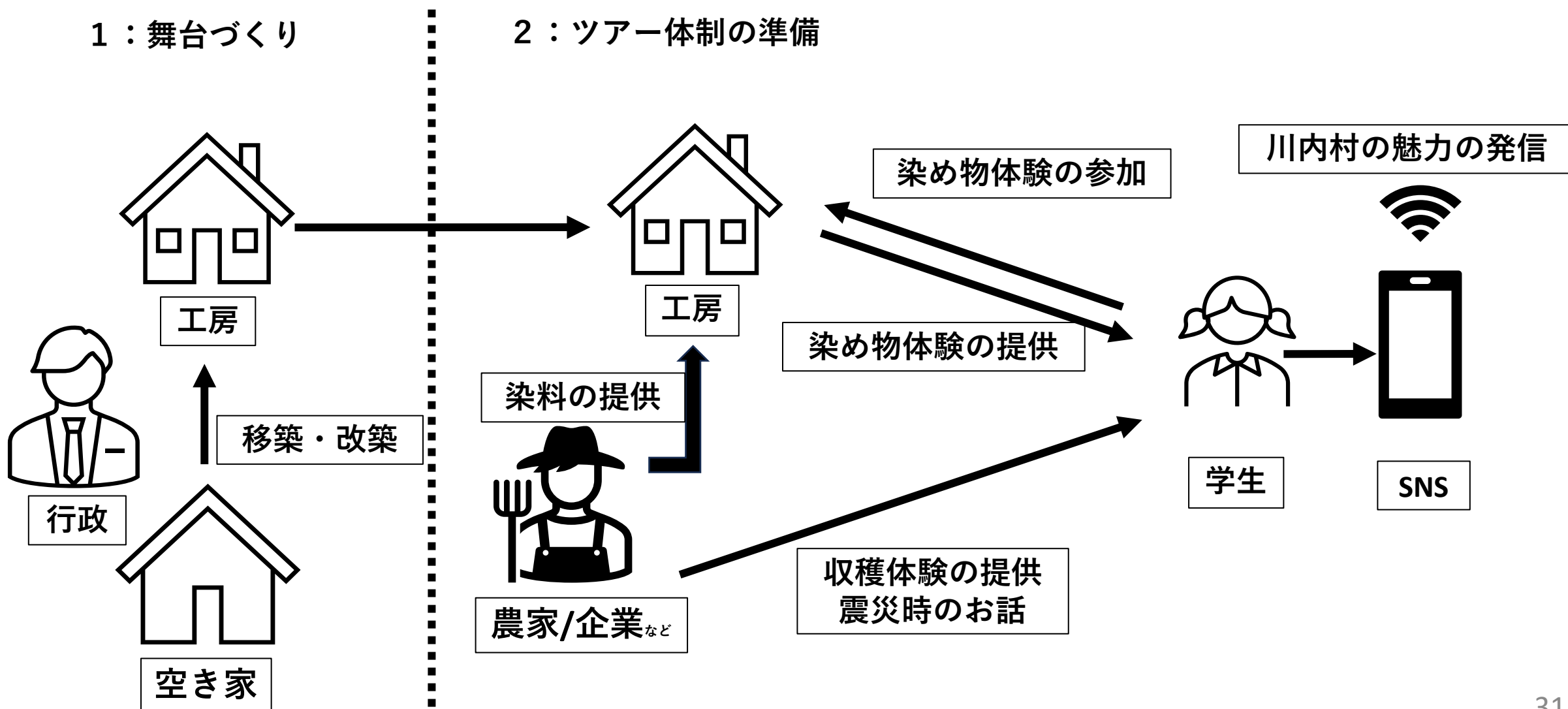
大学生をはじめとした**学生**（若い世代）を
メインターゲットに設定

川内村の魅力の発信



学生のための低予算のツアーを企画。
ツアーを通して川内村の魅力を知って
もらい、SNSで発信してもらう。

プランの概要



このプランに
協力して
いただける方



ワイン/ハウスぶどう × 染め物

かわうちワイン株式会社

〈会社の概要〉

ワイン・ハウスぶどう栽培の発端

→震災復興の中の新たな取り組みの一環

平成28年・約2100本の苗木とともにスタート

染料：剪定後の枝・ブドウの皮



2023.7.27撮影

剪定枝と葡萄の皮を提供することは可能。
染め物のプランも協力できることがあれば協力するよ。

統括マネージャー
遠藤一美さま



実際にやってみた！

用意する物：巨峰の皮 1 房分
ミョウバン大匙 3
水500CC
手ぬぐい

①水500ccと皮を耐熱容器に入れ、今回は700W20分で加熱し色素を抽出。

②抽出後の液体に手ぬぐいを浸し、弱火で一時間ほど火にかける。



実際にやってみた！

③液体から取り出した手ぬぐいを色が出なくなるまで水洗いする。

④4～5時間ほど干し、完成。
左が染める前で右が染めた後で、薄い藤色へと変化した。



色素抽出：20分
色素定着：1時間
乾燥時間：5時間
合計所要時間：約6時間半

しいたけ × 染め物

有限会社 遠藤きのこ園

〈会社の概要〉

震災の影響を受け廃業寸前のきのこ産業を遠藤さんが引き継いで運営。遠藤きのこ園では椎茸を始めとして、きくらげなどのきのこ類を栽培。

**染料：出荷基準を満たせない「くずきのこ」
シイタケ栽培に菌床から抽出される液体**



2023.7.26撮影



2023.7.26撮影

きのこ染めの存在を知らなかったけど、こういったアプローチ方法もいいね。染料は提供可能。プランも協力できることがあれば協力するよ。

来村する人が増えると嬉しいな。

代表取締役
遠藤雄夫さま

ぶどう染め・きのこ染めが浸透してきたら
今後のコラボ先として



サラサドウダン × 染め物



出典：川内村ホームページ「村の花、木、鳥(kawauchimura.jp)」



出典：世界の「かなこ」 「ツツジの花びら染め」

サラサドウダンはツツジ科のため、同じようツツジ染めが可能だと考える

染料：サラサドウダンの花卉



花はラボ前や地域住民の庭に植えてあるから、そこから提供していただくのはどうか？

一般社団法人 かわうちラボ
事務局次長 橋本英典さま



サラサドウダンは色素が薄いからリンドウとかもいいかもね（新しい提案）

fuku farming flowers
福塚裕美子さま

蕎麦 × 染め物

染料：植物の蕎麦殻

事例 株式会社織司「蕎麦殻染」



出典：姫のそば ゆかり庵



出典：株式会社織司公式サイト 「蕎麦殻染」

木炭 × 染め物



出典：東京新聞2021.6.9「焼け木で炭染め 足利、山火事からの復興願い」より

染料：粉碎し粉状にしたもの

事例 有限会社 初山染工



出典：有限会社 初山染工公式サイト



川内村は木炭で恩恵を
受けてきた村なんだよ

福島県川内村長
遠藤雄幸さま

服飾工場 × 染め物

株式会社リセラ川内工場



出典：会社概要【株式会社リセラ】(resela.co.jp)

〈会社の概要〉

学販用の体操服からスポーツウェア・水着などを製造している工場

染める素材を提供していただく
例えば...スポーツウェアを提供してもらう



村内で開催されるトライアスロン大会などの
ユニフォームを染め物にするコラボも...?

川内村のスポット × 染め物

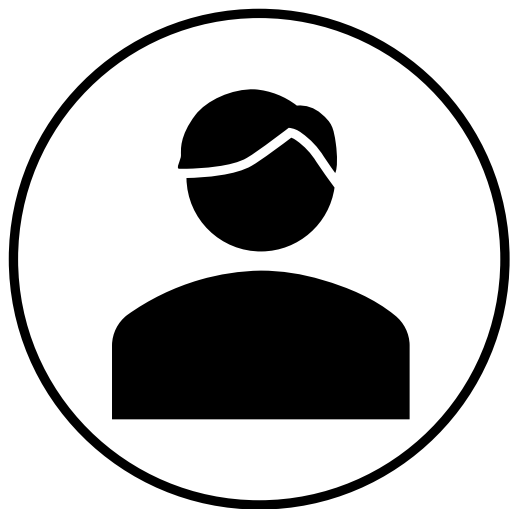
- かわうちの湯でのタオル販売
→染め物タオルの販売
- Café Amazon、秋風舎などのカフェで染め物ランチヨンマットを使用
- 川内村の観光スポットの従業員に染め物エプロンを着用してもらう



川内村は野球が強い。野球ユニフォームを染め物で作るのもいいね。染め物をアピールできるチャンス！

川内村役場
農政係 主任主査兼農政係長
猪狩栄志さま

その他 × 染め物



子ひげ商店
穴戸光二さま

染め物、面白いね。川内村は農業がさかんなんだよ。キャベツやイチゴでも染め物ができるのではないかな？



川内村役場
商工観光係 主任主査
坂本真理子さま

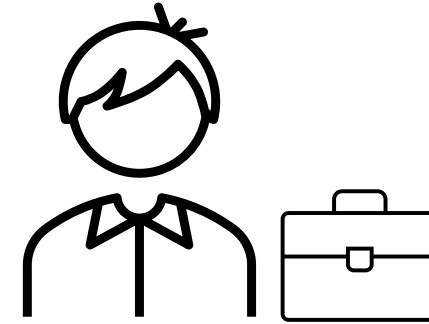
染め物っていう案は今までにない。村の特産品は旬があるから、それを利用して季節ごとに〇〇染ってできると楽しいね。

なぜツアーに染め物体験を組み込むのか



村側の主なメリット

- ①：染め物による**村内の経済循環**が高まる
- ②：ワークショップを組み込むことで**地域住民が取り組みの一環に関わる**ことができる

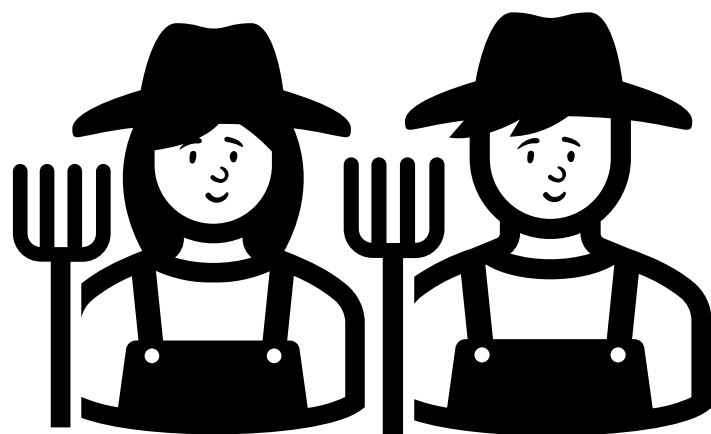


訪問客の主なメリット

- ①：**初めての**染め物体験になり得る
- ②：買って終わりがちな染め物について生産工程からよく知ることができ、**購買意欲**につながる

プランの特徴

課題の一つとなっている空き家を
改築した拠点で染物体験のワーク
ショップを行う



染料元の作物等の提供



体験場所の提供

染め物の体験工房

数ある空き家のうちの一つに
養蚕家の空き家がある。



移築し工房化する

移築先は木戸川近く、人々が集まりやすい場所を想定。



かわうちラボ 事務局次長 橋本英典さまより
いただいた、養蚕を行っていた空き家

道具はボロボロだから使えないけど、建物自体はリノベーションすれば使えると思うよ。

川内村役場
産業振興課課長
秋元敏博さま



日帰りのプラン例

- 6:00: 新宿駅集合
- 10:00: 染め物工房到着
- 10:30: **染め物体験**開始
- 11:00: 川内村の特産を使用した昼食
- 12:00: きのこと園、かわうちワイナリーで**収穫体験**
収穫体験の際にガイドから**川内村について学ぶ**
- 15:00: 天山文庫見学
- 17:00: あれ・これ市場にてお土産購入
- 18:00: 夕食（天山）
- 19:00: 村出発
- 23:00: 新宿着



1泊2日のプラン例

【1日目】

6:00: 新宿駅集合

10:00: 染め物工房到着

10:30: **染め物体験**開始

11:00: 川内村の特産を使用した昼食

12:00: きのこと園、かわうちワイナリーで**収穫体験** 2023.7.26撮影

収穫体験の際にガイドから**川内村について学ぶ**

15:00: 天山文庫見学

18:00: 夕食（天山）



【2日目】

8:00: 朝食

9:00: 自由時間

10:00: いわなの郷、昼食

13:00: あれ・これ市場にてお土産購入

14:00: 村出発

18:00: 新宿着



プランについてのまとめ

染め物のまち、川内村

村内の特産品の廃棄物などを有効利用することで
地域内の産業を結び付け、染め物という
新しい産業を確立し染物の街に。

村の抱える課題を解決するプランになると同時に、
川内村の新たな姿を生み出すプランになる。

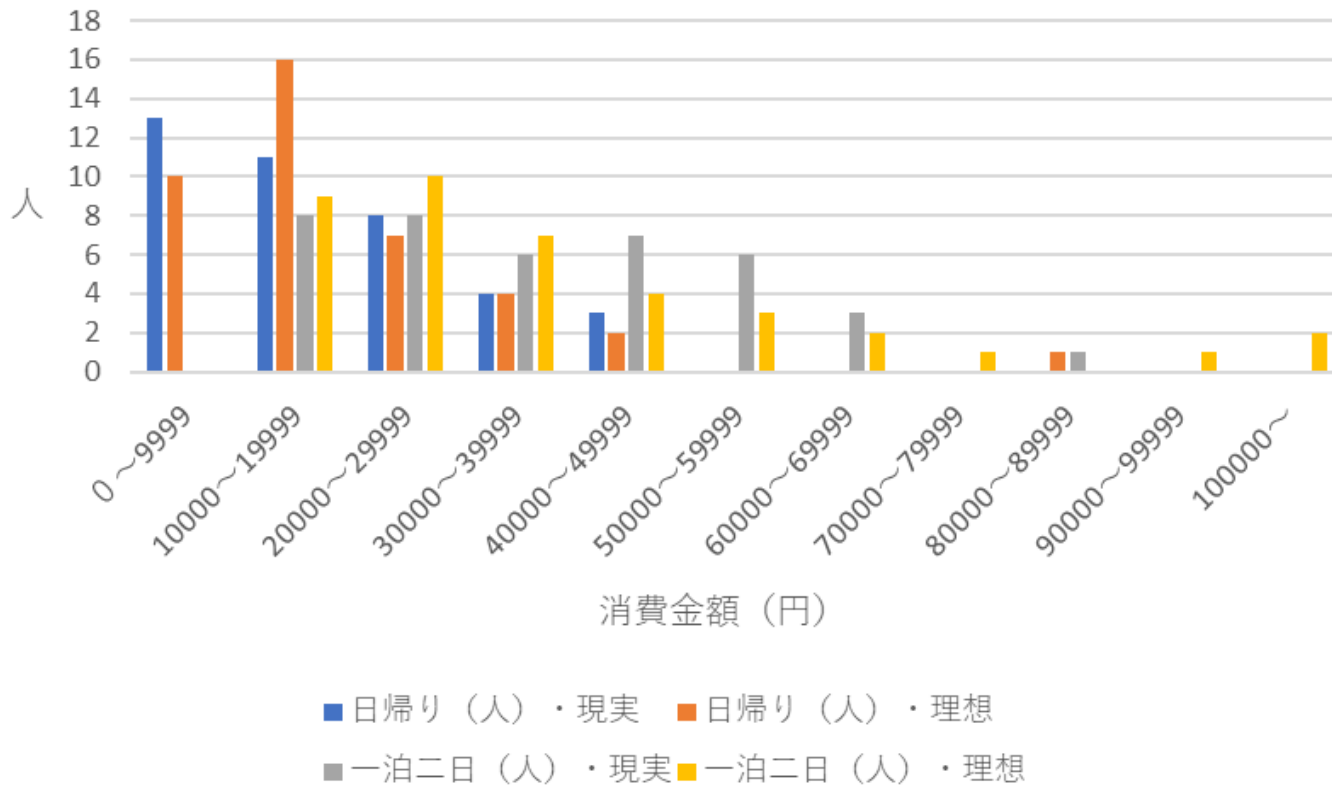
04

ユニオンプランの効果と 実現計画

- ・ 経済効果
- ・ 人口/観光客誘致
- ・ 生産人口の増加
- ・ 文化的景観の形成
- ・ 観光まちづくり
- ・ 実現計画（情報発信/PR方法）

実際の旅行での消費金額

旅行の際に費やす金額の調査



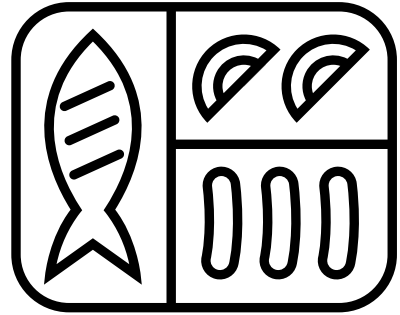
・実際に旅行をする際、日帰りでは1万円以内、一泊二日だと2万または3万円以内を予算としている方が多数。

・日帰りの理想予算は2万円、一泊二日の理想予算は3万円が多数であった。

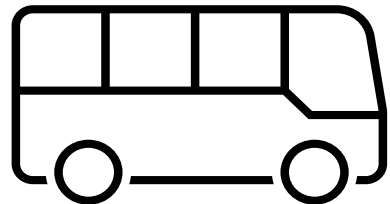
→予算はこの範囲内に抑えることとする。

2023年8月16日～8月18日の2日間
Twitterにてアンケートを実施 (回答者42人)

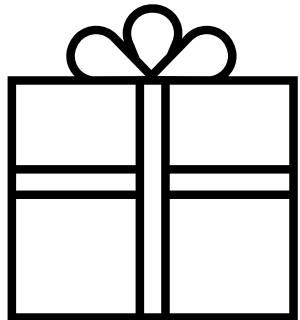
効果① 経済効果



食事代：3000円（日帰り）
6000円（1泊2日）



交通費：7000円



お土産費：3000円



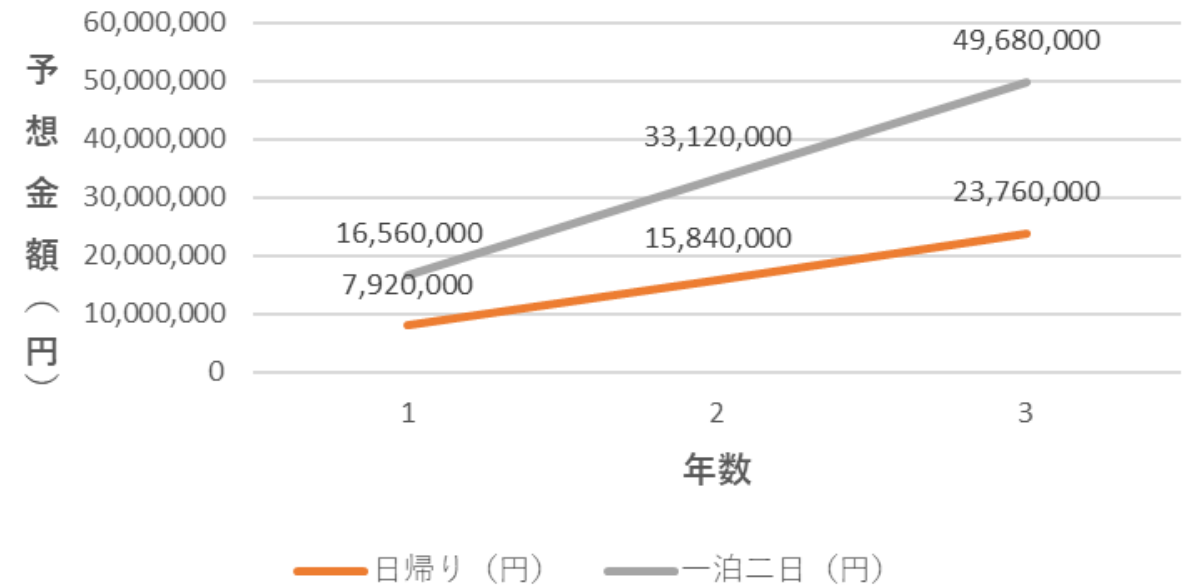
体験費（染め物・葡萄椎茸
収穫体験など）：5000円



宿泊費：9000円

日帰りの場合：**18000円**
一泊二日の場合：**30000円**を予算とし、
このうち交通費を除いた金額を売上高とし、
一度のツアーで**15人**を集めると仮定すると...

3年単位で見たツアープランによる売上高



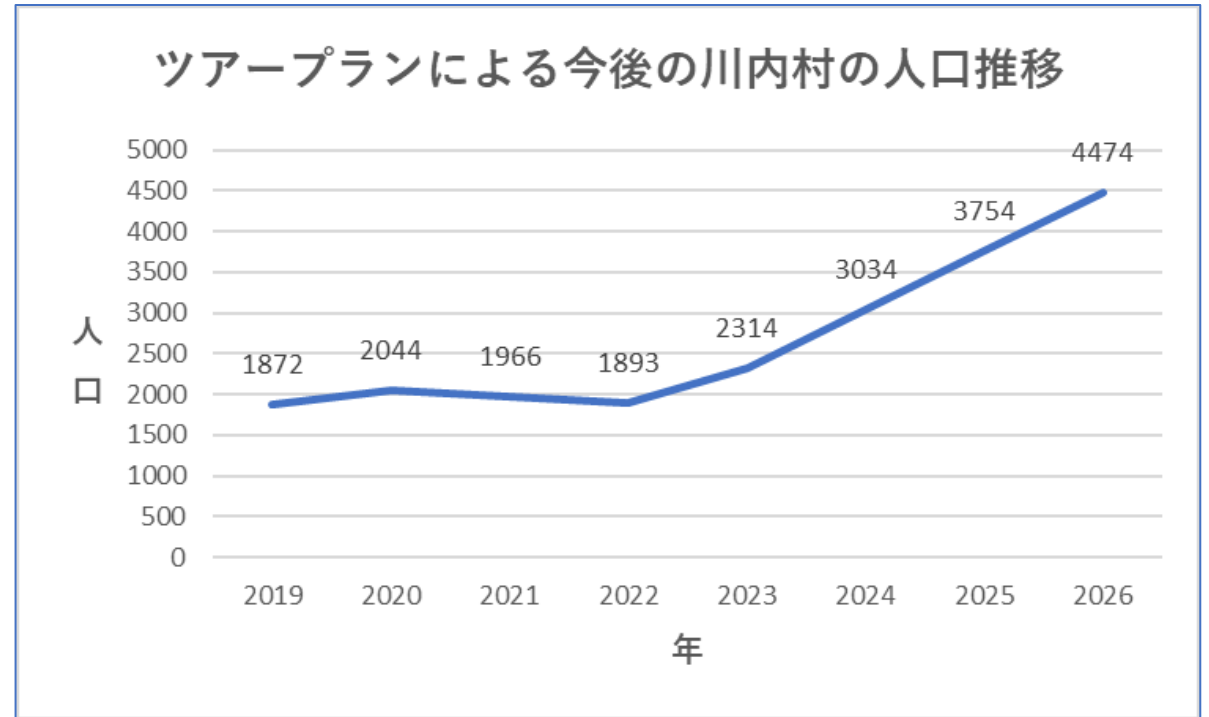
上記のグラフは参加客がすべて日帰り、または宿泊だった場合の結果だが、おおよそこの程度の売上高が期待できる。

効果② 人口/観光客誘致

- 一週間に一度のツアーで15人を村内に迎え入れると仮定すると...
3年間：15人×4週間×12か月×3年 = 2160人



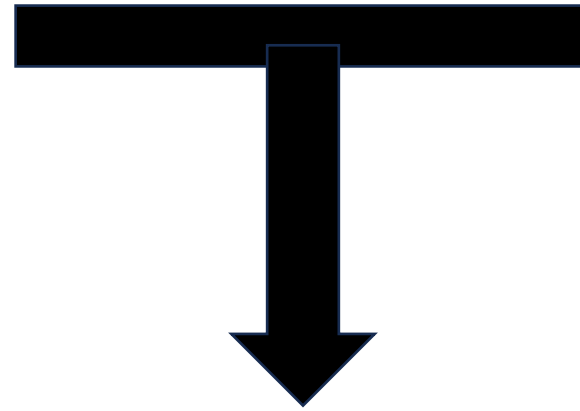
- 川内村の人口の**約9割**に相当する方が村の**関係人口**になりうる！
(R5年8月現在総人口2314人)



- 関係人口が定住人口に変わると仮定すると、村内の人口を増やす効果も期待できる。
⇒生産人口増加につながる

効果③ 生産人口の増加

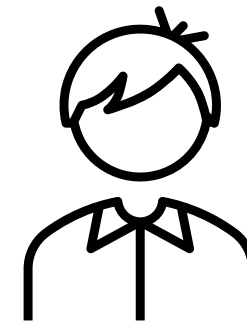
新たな産業の始動→工
房で勤務する人や染料
元の作物を栽培する人
など、新たな雇用を生
み出すことにつながる。



ツアーの先に、関係人
口が増え、ゆくゆくは
定住人口へと変わって
いき、村内で働く生産
人口へと成ってゆく。



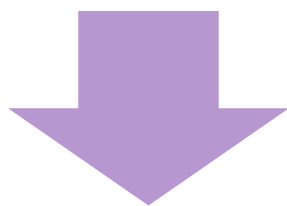
村の方：労働力が足りない



移住者：働き口がない

効果④ 文化的景観の形成

染め物の工程の中に染色した
ものを水にさらす工程



川内村の田園風景と木戸川の
清流と掛け合わせることで新
しい**文化的景観**を形成できる



イメージ画像



プランの特徴

ワークショップで制作した染め物は、
乾燥時間があるため当日に渡せないため
長く滞在してもらおう/**次回の来村時に受け取る形**に



干している風景は
ライブ配信などで確認
できるように...

預かっている間は村内で干したり
して**文化的景観**の一部などに

後日來村した際に渡すことの意味

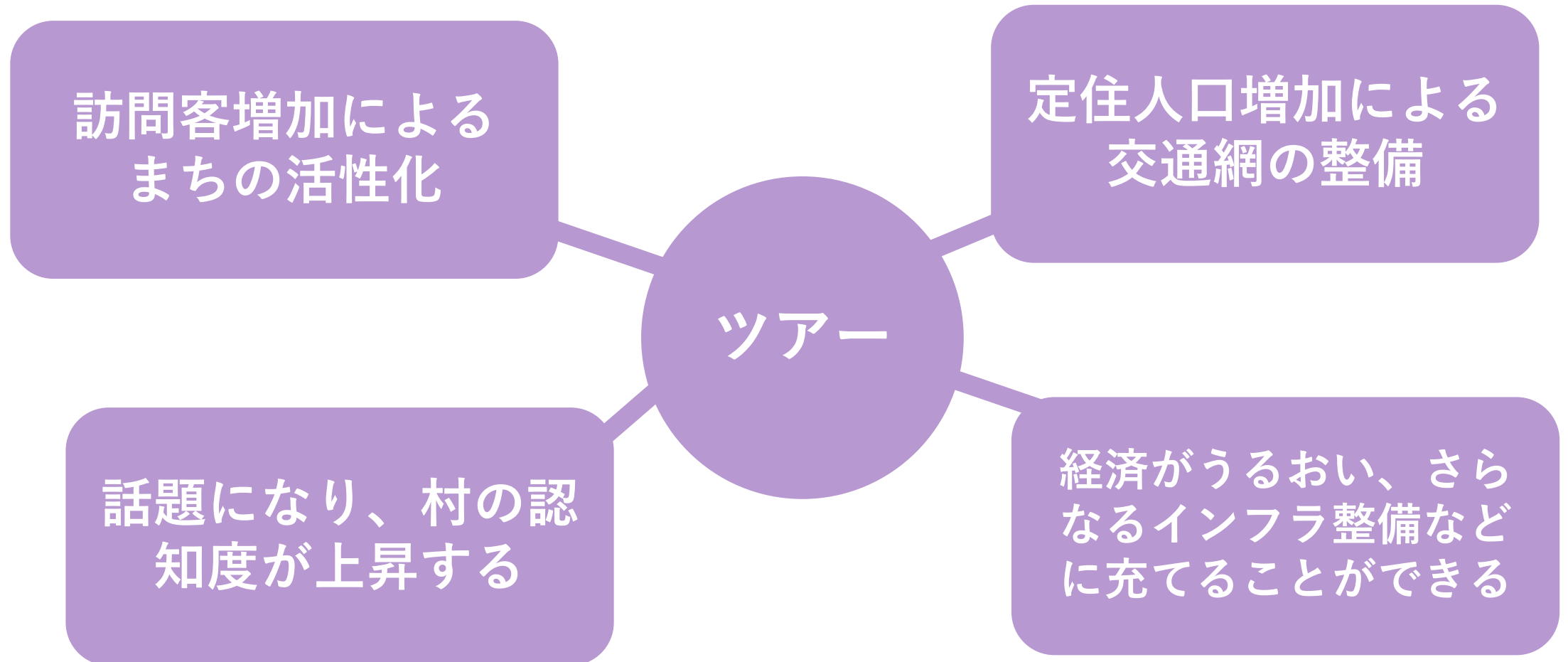
- もう一度村にきてもらう理由になる
 - 村での滞在期間を延ばす理由になる
- 受け取った染め物は村での施設でサービスを受けること
のできる証明書代わりに
- 前回の色とは異なる色で新たな体験を

郵送にしてしまうと
もう一度来てもらい
にくくなる可能性



リピート客が増えて関係人口増加が期待できる

効果⑤ 観光まちづくり



実現計画

どうやって認知してもらうか？

村の内側

染料の元となる作物の一部を
いただくにあたって、村の広
報や村内の回覧板に掲載する
ことによって地域の方々に
取り組みの存在をアピールし、
協力していただく。

村の外側

ツアーの内容をまとめたポス
ターを制作し、福島県のアン
テナショップや、高速道路の
SAといった人の目に留まりや
すい箇所に掲載し、村や県の
SNSで積極的に発信していく。

実現計画

SNSでの情報発信

右図のようなポスターを制作し
人目のつきやすい場所に
積極的に貼ったり
SNS上にホームページを
制作したりしていく。



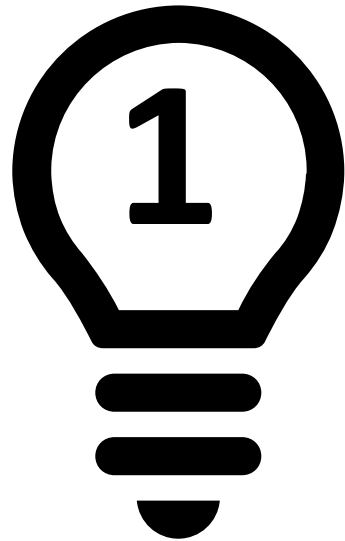
05

おわりに

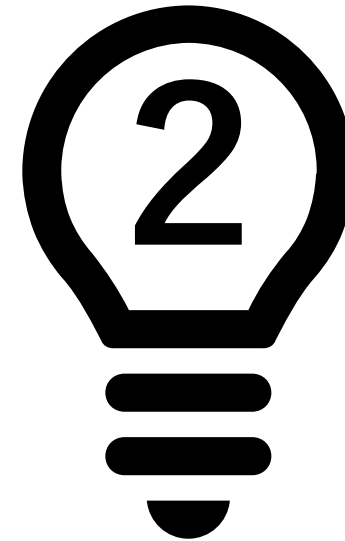
- ・ プランの魅力
- ・ 今後の展望
- ・ ご協力いただいたみなさま

プランの魅力

二つの魅力（独自性）



- ・ リピーターを取り込む仕掛けを施している点



- ・ 既存資源の活用はもちろんのこと、新しいものでツアーを作成している点

展望

- ・ ツアーで獲得した関係人口を定住人口に
- ・ 染め物という新しい産業を通して観光客誘致、地域活性化、地元住民のアイデンティティ創生に繋げる
- ・ 県外からの染め物作家さんを招聘し、さらなる技術を学ぶ
- ・ 周辺地域の織物産業などが有名な地域との連携
- ・ 耕作放棄地を利用し、新たな染料になり得る作物の栽培

ご協力いただいたみなさま

- ・福島県川内村長 遠藤雄幸さま
- ・川内村役場
産業振興課課長 ほ場整備推進室長 農業員会事務局長 秋元敏博さま
商工観光係 主任主査 坂本真理子さま
農政係 主任主査兼農政係長 猪狩栄志さま
- ・一般社団法人 かわうちラボ 事務局長 三瓶義浩さま
事務局次長 橋本英典さま
- ・有限会社 遠藤きのご園 代表取締役 遠藤雄夫さま
- ・かわうちワイン株式会社 統括マネージャー 遠藤一美さま
- ・子ひげ商店 宍戸光二さま
- ・cafe&gallery 秋風舎 志賀風夏さま
- ・fuku farming flowers 福塚裕美子さま
- ・アンケートに回答していただいたみなさま

貴重なお時間をいただき、ありがとうございました！
